

令和元年度 福井農林高等学校 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 教育課程 学習指導 研修	<p>1生徒が向上心を持って考査に取り組める学習環境を整える。 目標：考査前学習会の100%実施</p> <p>2各教科・学科で自主教材を作成するなど、分かる授業の推進を図り、生徒の授業への満足度を高める。 目標：授業満足度80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・考査前学習会は行事等との調整を図りながら、予定どおりほぼ100%実施できた。考査では、病気や忌引などで受験できなかった生徒に対し、すみやかに追考査を実施した。 ・生徒の授業理解度は、85.6%（昨年比+0.2P）で、目標を達成することができた。しかし、授業がわからない、ほとんどわからないと回答する生徒が55名（14.4%）いるのが現状である。 ・今後も生徒の現状に即した指導により理解できない生徒をなくすとともに、理解度を高める努力を継続する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業がわからない生徒の多くは、学習習慣が身につけられていないことに起因した基礎学力不足と思われる。 ・学習習慣の定着と基礎学力・学習意欲の向上を図るために、昨年度導入された電子黒板などのICT機器を活用し、教科・科目のきめ細やかな指導と、家庭学習、主体的な学びを推進するために学年会や学科とも連携をとり、学校全体での取組みを図っていく。 ・また、生徒の実状に応じて、習熟度別の授業や個別指導も行っていく。
2 生徒指導 生徒指導部	<p>1社会生活の基本である挨拶を推進し、学校はもとより家庭、地域でも積極的な挨拶を励行させる。 目標：全生徒が積極的に挨拶100%達成</p> <p>2携帯電話の適切な使用方法を身に付けさせるなど、家庭との連携のもとに、ルールを守る意識を高める。 目標：積極的にルールを守る意識100%達成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「積極的な挨拶の励行」と「ルールを守る意識の向上」を目標として、全教職員で指導することができた。生徒は学年が進行するとともに意識が高まっているように思われる。 ・「ほとんど挨拶ができていなかった」生徒は1.6%と少ない。（前年度比+0.6P） ・規律においても「ほとんどルールを守らなかった」とする生徒は0.5%と非常に少ない。（前年度比±0P） 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会・学科との連携を図り全教職員が組織的に取り組み、指導を継続することにより、コミュニケーション能力や社会生活を送る上での規範意識の向上、モラルの醸成を図っていく。 ・規律を守るための指導については、家庭との連携を図りながら粘り強く指導を続けていく。
3 進路指導 進路指導部	<p>1総合探求・LH等の時間の活用により計画的に進路指導を実践する。 目標：総合探求や進路指導の達成度自己評価アンケート80%以上</p> <p>2全校体制によるきめ細かな進路指導を行い、個々の生徒の進路実現を図る。 目標：進学就職希望100%達成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者・教職員いずれも目標値を超えることができた。生徒・保護者いずれも進路目標の設定割合が昨年よりも増加した（生徒昨年比+2.1P）（保護者昨年比+2.2P）が、教職員の自己評価が減少した（教職員昨年比-3.6P） ・生徒の目標設定ができる割合は、1年生85.2%、2年生64.1%、3年生98.6%。2年生で大きく値が低下しているため、インターンシップの振り返りや外部講師による講演など将来の目標設定をしっかりと持たせることが大切であると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会や学科と連携し、進路希望調査や面談、基礎力診断測定等を通して入学当初から生徒の進路意識を高める取組みを充実させていく。特に2年生では学科インターンシップや現場見学、外部講師活用など社会体験を通して進路希望を具体化させる。 ・生徒一人ひとりに対する教職員の進路情報の共有化を一層進め、企業訪問や面接指導などに活かす。 ・就職・進学状況や卒業生の実績など最新の進路情報を、進路説明会や集会、グリーンメール等の機会に生徒および保護者に周知していく。
4 図書指導・保護者との連携・安全管理 図書庶務部	<p>1図書館利用者及び図書貸出数の増加を図る。 目標：年間貸出1500冊以上</p> <p>2学校教育活動について保護者への積極的な情報提供を行い連携を促す。 目標：グリーンメールやHPの既読80%以上</p> <p>3 避難訓練や防災、安全教育などを通して生徒の防災意識や安全意識を高める。 目標：生徒の防災、安全意識80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の図書貸出冊数1500冊には到達しなかったが、1/24時点で1284冊（昨年比+250冊）、生徒1人当たりは3.4冊（昨年比2.6冊）と大幅に増加した。 ・課題研究などの調べ学習やタブレットパソコンでのグループ学習、定期考査前の学習など、様々な形で図書室が利用されている。 ・グリーンメールやホームページで、教職員からのメッセージ、大会や行事の記録や写真等を保護者へ多くの情報発信をすることができた。 ・生徒が保護者に配布物を渡している割合は目標を達成しているにもかかわらず、保護者が読んでいる割合は71.5%と目標を下回っている。 ・全校生徒・教員対象の避難訓練や安全講話を実施したことで防災意識は高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学早々に1年生対象の図書館利用オリエンテーションを実施することで、早い段階から図書館を利用してもらえるように配慮する。新着図書の見学や図書配架の工夫を行い、より多くの生徒が本に興味を持てるよう努めていく。学期毎の読書会、期末考査後の朝読書でも図書館の本をより多くの生徒が利用できる工夫をする。 ・学校行事や資格取得など生徒の動きを発信して欲しいという保護者からの依頼に応え、HPは行事毎にリアルタイムで更新、グリーンメールも隔月での発行を継続する。 ・防災委員会による学期毎の安全点検や、全校での避難訓練、教職員の防災訓練を継続することで、防災や安全意識を培っていく。
5 保健管理 保健部	<p>1健康的な規則正しい生活を送り、体と心の健康について自己管理の徹底を促す。また、定期健康診断、性教育講演会、救急救命講習会等の健康に関する活動を通して、健康づくりを常に意識させる。 目標：80%以上の生徒が自己の健康管理を心がけていることを目指す。</p> <p>2快適で清潔な学習環境の整備のため、毎日の一斉清掃の徹底を図る。また、年5回の内大掃除、年2回の環境整備、年3回のワックスがけを通して、美しい学校環境づくりをさらに意識させる。 目標：80%以上の生徒が意欲的に校内環境美化活動に取り組んでいることを目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自らの健康管理への関心を高めさせ、健康的な学校生活が送れるように、健康に関する広報活動や啓蒙活動を行ってきた。このことにより、虫歯の処置など少しずつではあるが意識や関心が向上している。 ・自分の健康管理を心がけている生徒の割合は、78.0%（前年比-0.5P）で、目標の80%に届かず昨年度より若干減少した。 ・家庭で生徒自らが健康管理に努めていると認識している保護者も77.4%（前年比-1.8P）で、昨年度より低下するとともに目標を下回り、課題を残した。 ・教職員による健康管理についての注意や喚起は、95.5%（前年比-2.1P）とかなり高いものの、若干ではあるが年々低下している。 ・校内美化活動を意識している生徒の割合は、85.9%（前年比+1.3P）で、目標を上回るとともに年々増加している。 ・学校の環境美化に対する保護者の満足度については、95.7%（前年比+1.3P）で、高い状態で推移している。 ・教職員の清掃指導・監督の実施についても、97.7%（前年比-2.3P）で、昨年度を下回ったものの、高い状態で推移している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自らが健康管理できる割合を高めるため、医療従事者や養護教諭の講話を企画したり、入学式後に1年生の保護者対象に保健指導を行うことや、保護者懇談会で健康管理について話題にするよう担任に依頼するなど、取組みを継続する。 ・生徒の校内環境整備への意識をさらに高めるとともに、毎日の通常清掃の徹底を図るために、保健委員会の活動として清掃中の見まわりを継続実施していく。
6 スペシャリストの育成 実習部	<p>1課題研究や校外実習・学校行事などを通して、地域や産業界等との交流に取り組み、地域連携を深める。 目標：教員の80%以上が地域との交流の大切さや農業の素晴らしさを生徒に伝えることが出来たか。</p> <p>2資格取得を通して、生徒の学習意欲を高め、学科の専門性を高める。 目標：卒業までに福井フューチャーマイスター「ゴールド」70%以上認定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究や校外実習などを通して積極的に地域や産業界等と関わるのができた生徒は80.4%、満足できた保護者は98.4%、教職員の意識は81.0%と良好な結果となった。 ・学年進みにつれて校外での交流・貢献活動が増えて、意識も増加している。 ・本年度の卒業生の福井フューチャーマイスター取得状況はゴールド以上が72.5%であったが、昨年よりプラチナの取得者が減った。これは、資格取得数の減少と各種大会への出場が少なかったことが影響している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学科主任会議や実習会議において、定期的に地域や外部連携に関する話題や情報提供を行い、教職員の積極的な活動をサポートしていく。 ・資格取得は学科間や難易度によって差があるが、各学科で3年間の取得目標を持たせ、入学時より生徒・保護者に働きかけて、計画的な取得を促す。 ・「福井フューチャーマイスター制度」の「プラチナ」「ゴールド」の認定に向けて、生徒に学校生活全般の過ごし方を振り返らせ、保護者には資格取得の意義と検定料負担への理解が得られるように説明していく。
7 生物生産科	<p>実験・実習や校外研修など多くの体験から学びの機会を増やす。また、日本農業技術検定、土壌医検定などの資格取得を通して学習意欲の向上を図り、農業に関する知識・技術を体験的に学習させ、学科の専門性を高める。 目標：3年生の時には、日本農業技術検定の合格率が80%以上となるよう指導する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食の安全安心の取り組みとして、アイメックハウスによるトマト栽培でGAP認証を取得できた。 ・外部連携による研究が増え、課題研究発表会が充実したものとなった。 ・現3年生の農業技術検定3級合格率は94%を達成し、土壌医検定12名・危険物取扱者乙種4類12名の合格者を出すことができ、他の資格を含めて例年よりも成果をあげることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、実験・実習をより充実させ、地域との連携や様々な校外体験学習を通して、農業への興味・関心を高められるよう、指導を工夫していく。 ・日頃の学習の成果として、日本農業技術検定などの専門的な資格を中心に、情報処理等の資格も合格できるよう補習や課題提出などの充実を図り、引き続き資格取得を推進していく。

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
8 環境工学科	実験実習を通し、土木・造園・林業・環境に関する知識と技術を理解させ、測量士補や2級土木・造園施工管理技術検定試験(学科)などの資格取得を目指す。 目標:80%以上の生徒が、いずれかの資格を取得できるよう指導する。	・測量士補合格者は12人で、2桁を超えることができた。一方、2級土木施工管理技術検定は12人(60%)の合格となり、昨年の95%と比較すると大幅に減少した。 ・専門知識を深めることができた生徒が93.5%、保護者が88.8%と昨年同様目標を達成できた。	・これまで同様、資格取得につながる科目については合格を目指した授業を展開し、朝や土曜日の補習も実施していく。 ・学年による理解力の差はやむを得ないが、取り組み姿勢については徹底した指導をしていく。 ・基礎学力が不足する生徒に対しては、諦めないように丁寧な指導を心掛け、専門知識を深められるようにしていく。
9 生活科学科	1食育教室、ボランティアなどで、地域との連携・交流を図る。 目標:年間3回以上の交流をはかる。 2全生徒の適性等を踏まえて、個に応じた資格取得指導を目指す。 目標:資格の合格率80%以上を目指して指導する。	・小学生対象の料理教室や一人暮らしの高齢者への食事サービスのお手伝い。更に啓蒙公民館と連携した花壇整備や石けん作りの講習等を行い地域の方との交流を深めることができた。 ・専門的学習について9割以上の生徒が努力しており、9割以上の保護者に満足してもらっている。 ・家庭科技術検定食物調理の合格率は、4級・3級・2級とも100%であった。同じく被服検定は4級・3級が100%、2級については63%であった。フューチャーマイスターについては、ゴールド94%、シルバー6%であった。	・地域との連携については、これまでに培った関係を今後も継続し深めていきたい。 ・技術検定については、年々生徒の家事等の経験不足による技術力の低下が見られる。今後も資格取得の意義の周知や放課後の個別指導を徹底していく。 ・特に被服検定2級の合格率を上げることができるよう、必要に応じて放課後の補習や等を強化していきたい。
10 生産流通科	簿記、情報関係などの資格取得を通して、農産物の生産・加工・販売に関する知識・技術を習得させる。 全教員が、生徒の適性等を踏まえて、個に応じた資格取得指導を目指す。 目標:80%以上の生徒が、一人当たり10以上の資格取得を目指して指導する。	・「資格取得」という目標に向けて取り組み、生徒教員については目標を達成できた。 ・1年生の簿記検定、情報処理検定では90%以上の合格率となった。 ・2,3年生の資格取得合格率が低い状況にあるので、学習の定着を身につけさせたい。	・生徒に「資格取得」への意欲とスキルが身に付くように引き続き指導していきたい。 ・3年次の情報の授業がなかったこと、加工コースでは資格取得が少ないなどがあるため、3年次やコースによるとれる資格を増やしていきたい。 ・今後も資格担当の教員だけでなく、学科の全教員が連携・役割分担し、一人でも多くの生徒が取得に結び付くように指導を継続していきたい。
11 1学年	1基本的な生活習慣の確立を目指し、時間厳守を意識させる。 目標:80%以上の生徒が、集会や教室移動時の時間を厳守できるよう目指す。 2考査一週間前から行う学習会を中心に、クラス全体で学習に取り組む姿勢を養う。学年全員受験の漢字検定に合格するため、小テストを実施する。 目標:80%以上の生徒が学習会などで継続的に学習できるよう目指す。	・集会や教室移動など時間厳守を心がけて行動することができるが93%であり達成できた。また集中して講話を聞くことができ、落ち着いていた。 ・頭髮や服装も落ち着いており、特別な指導を要する生徒は少なかった。 ・全体的に遅刻欠席が少なく、意識して登校できている。家庭での協力も関係しているようである。 ・欠点保持者も少なく、おおむね定期考査に向けて学習する習慣が身についていた。 ・全く学習しない者も15%程度あり、改善が必要である。	・基本的な生活習慣の定着のため、時間厳守と安易な遅刻をしないよう、粘り強く指導していく。 ・漢字検定などの資格取得に向けた宿題を出したり、考査前の学校での学習会の続きを家庭で行うよう意識を高めるなどして、家庭での学習習慣を身に付けさせていきたい。 ・動機付けも含めて継続的に行い、家庭学習習慣が身につくように指導を行う。
12 2学年	インターンシップなどを通して自らの進路を明確にし、進路達成に向けた学習活動を促すため、進路指導部や保護者との連携を図る。また、基本的な生活習慣の定着を目指し、規則やマナーを守り、落ち着いた学校生活を送れるように促す。 目標:80%以上の生徒が進路目標を意識して学校生活を送ることを目指す。	・事前準備や事後の報告会を含めたインターンシップに関する取り組みなどを契機に、将来について真剣に考える生徒が93.1%と多く、保護者も80.5%が認識し、目標を達成している。 ・資格取得に向けて日常的に取り組む姿が見られるなど、多くの生徒が進路を意識して学校生活を送っているが、このことを自分の進路に反映し、明確な目標に繋がらない生徒もいることが課題である。 ・全体として落ち着いて生活しており挨拶等もできているが、特定の生徒の遅刻指導が徹底できなかったことが課題である。	・進路指導部との連携を密にし、生徒に自らの進路を考える機会を数多く持つために、進路説明会などで進路室の利用を促していく。 ・進路が明確になっていない生徒に対しては、進路に関する面談を重ねるなど、保護者とも連携を図りながら、進路実現に向けた取り組みに力を入れていく。 ・遅刻や容儀など基本的な生活習慣の定着に至っていない生徒に対しては、今後も粘り強く個別に指導していく。
13 3学年	1進路指導の充実 ・進路関係行事等への積極的な参加を促し、進路指導部、学年、学科、家庭、外部との連携を密にする。 ・基礎学力を充実し、選考試験へ向けてその準備に取り組む。 2社会人に向けて意識の向上 ・社会人として備えるべきマナーや常識を持ち、学校生活を送る。 3学校行事の成功 ・最高学年としての自覚を持ち、リーダーシップを発揮し、学校行事へ意欲的に取り組む。 目標:早期の進路決定100%の実現を目指す。	・進路指導部が丁寧に対応してくれた。特に、不合格者に対する指導に感謝したい。進路指導部、ホーム担任が中心になり、進路についてより深く考える機会を提供できた。その満足度は生徒、保護者とも96%を超えている。生徒の中には就職への不安が大きい生徒もいたが、多くの方々の支援を受けて進路選択ができたと考えられる。 ・一方で社会人として身につけなければならない時間を守ることや、服装の乱れに課題を残す生徒もいた。学校行事にはリーダーシップを発揮し取り組むことができた。 ・思いやりや助け合いの心については、あらゆる機会を捉え、培っていかねばならない。 ・同級生や先輩、後輩に思いやりや助け合いの心を持って接すること、卒業後も、企業内でまたは研究室で新しい信頼関係を構築することが求められる。人格を否定するような言動、暴力は断固として指導していく。	・企業内定を目指す生徒も、進学希望先の合格を目指す生徒も基礎学力の充実を目指すべきである。特に進学希望者は1年次より英、数、国の授業や模擬試験をとおり、基礎学力の向上に継続性をもって取り組まなければならない。学力向上に努め、主体的に学部/学科における研究領域を選択してほしい。 ・社会人としての身につけなければならない常識、マナーをあらゆる学校生活の場面で指導していく。課題を抱えている生徒には面談を必要な時点で速やかに行う。 ・後輩を大切に、周りの方々に信頼されるような集団を引っ張っていく人に成長してほしい。学校行事で培った能力を新しい環境の下で発揮してほしい。
14 いじめ防止 いじめ対策委員会	1ホームルーム活動や学校行事、部活動等の集団行動を通して、全生徒が思いやりや助け合いの心を育てる。 2アンケートを実施し、面談やカウンセリング等を通して、いじめの早期発見と早期解決を図る。 目標:いじめの早期発見・早期解決への取組みについて、満足度80%以上を目指して指導する。	・思いやりや助け合いの心については、生徒95.8%、保護者92.7%、教職員95.5%ができておりと認識しており、目標を達成することができた。 ・同級生や先輩、後輩に思いやりや助け合いの心を持って接することがほとんどできない生徒が1.0%と少数ながらいる。 ・いじめについて伝えられる生徒は、生徒全体では86.9%と目標値に達したものの、1年生95.7%、2年生78.6%、3年生89.6%と学年により偏りがある。 ・いじめ対策については、保護者93.7%、教職員88.6%が十分評価し目標に達した。 ・いじめをアンケート等で伝えることができず回答している生徒が5.0%と、わずかながらいることが課題である。	・多彩な学校行事により、人間関係を学ぶ機会が多いことが好結果に反映していると考えられるので、今後も自主的な集団活動を継続し、100%を目指していく。 ・少数ながらいじめをアンケート等で伝える生徒がいるので、日頃からささいな兆候やサインを見逃さずに個人面談やカウンセリングを行っていく。 ・いじめ対策委員会で気がかりな生徒等の幅広い情報を共有し、学年会や学科と連携し、未然防止・早期発見・実効的かつ迅速な解決に努めていく。